

銃砲刀剣類登録審査会の様子



■平成二十六年四月から、東京都の銃砲刀剣類登録審査会の手続きに関して変更があった(詳しくは『刀剣界』第16号参照)。今号では審査会に行かれる方のために、実際に審査会に赴いて、どう変わったかをレポートする。

まずはおさらいをすると、大きな変更点は二つ。

①完全予約制の導入(時間指定)

②日程および審査会場

である。従来の審査会との比較を踏まえて説明していきたい。

①の予約制については、来庁者が長い時間待つことなしに審査を受けられるようにするという趣旨の下に変更された。

従来であれば、基本的に予約の必要がなく、受付時間は午前九時から午後三時までだった。受付が終われば、受付番号札をもらい、自分の番号が呼ばれるまで審査会場内で待機。実際のところは、朝八時には既に十組ほど並んでいることもあり、お昼時に受付しようものなら待ち時間だけでも二時間以上かかることがしばしばあった。不慣れた方にとっては、刀をどこ

かに預けることもできず、長時間我慢しなければならぬという状況が続いた。

昨年の下半期ごろからは東京都側で改善をさせていただいたため、ゴールデンタイムを避け、午後二時半以後に行けば、待ち時間もなくなり、審査を受けられるようになった。しかし筆者のように、毎月審査会に行く者でなければわかりにくかったと思う。

四月以降の新制度では、審査を受ける予定の前月末日までに、指定の希望時間を添えて登録申請書を文化財保護係まで提出する。前月末日までに必着なので、少なくとも二十五日までは送付しておくのが無難である。後日、東京都教育庁地域教育支援部管理課より、審査会の通知が届く。

なお、基本的には審査物件が

一振のみであれば午前、二振以上であれば午後、に割り振りされる。指定時間に行けば、三十分待機した後、審査を受けられるという仕組みである。

審査会当日の連絡先が、この五月までの通知書に誤って記載されていた。正しくは〇七〇-六四三三三三三五である。当日はこの電話番号以外連絡がきかないので、注意していただきたい。

その他詳細については複雑になるため、後述する。

◆車での来会に要注意

次に②の日程および審査会場についてだが、従来は、毎月第二火曜日、都庁第二庁舎十階だったのが、四月からは原則として第三土曜日(五月と十月のみ第三火曜日)、都庁第二庁舎一階に変更された。これは、一般の方が審査会のためにわざわざ

休暇を取らなくても来庁できるようにとの配慮からである。

しかし、一般の方々には確かに親切になったが、筆者のような刀剣商や従来の審査会に慣れた者からすると、必ずしも好都合ではない。審査日前日に物件を追加でねじ込んだり、混雑具合を予想してすいている時間を狙ったりすることができなくなり、かつ第三土曜日だと、刀剣の勉強会や交換会と重なることも多く、やりづらくなったな...というのが本音である。

去る五月十八日(日)、いつものように会社から車で審査会場の都庁に向かった。都庁には第一庁舎と第二庁舎のそれぞれに地下駐車場がある。従来であれば審査会場の第二庁舎十階に、地下駐車場からそのまま向かうことができた。しかし、第二庁舎駐車場は土・日・祝日が休業とあって使えない。

そこで、青梅街道から都庁通りに入り第一庁舎駐車場を目指したが、ここでアクシデント発生。たまたま都庁舎の点検日に当たり、閉鎖されていたのだ。このように駐車場が臨時休業することもあるので、車で行かれる方は前もって都庁公式ホームページで確認しておきたい。

幸いにも同じ都庁通り沿いに新宿NSビル駐車場があったので、そちらに入庫した。料金は庁舎の駐車場と比べると割高だが、近くて便利である。

新たに定められた集合場所、都庁第二庁舎一階北側入り口に向かう。平日であれば一階、二階それぞれ複数ある入り口から入庁できるが、土・日の出入り

はこのみである。一階北側入り口は正面玄関ではない。戸惑う方も多いかもしれない。

集合場所に着いたら、警備員に登録審査会に来た旨を伝える。しばらくすると誘導職員が来て点呼を取り、開放された入り口から一斉に入庁するという仕組みである。指定集合時間に前後しても、随時入庁することができる。その際は、上記の審査会当日連絡先に電話をする。

◆集合から審査終了まで

ここで受付の時間、順番について例を上げて解説したい(次ページ表参照)。

仮に、九時から十三時の間に十二人の審査希望者がいたとして、九時三十分集合の十〜十一時審査のグループをA、十時三十分集合の十一〜十二時審査のグループをB、十一時三十分集合の十二〜十三時審査のグループをCとする。審査テーブルが一、審査希望者一組の処理を十五分で終えると仮定する。

集合順というのは実際に入庁した順番、受付時刻というのは入庁した時刻、受付番号というのは実際に指定審査予定時間内の審査を受ける順番である。

例えば、表中の九時十分に入庁した希望者は、十二人の中で二番目に入庁したにもかかわらず、審査を受けられる順番は、十二〜十三時審査グループCの中で一番なのである。この場合、自分の審査は十二時から始まり、自分より後から来た人の方が早く審査を受けて、既に帰っている、というような状況になる。

また、十一時三十分に入庁

# 刀 剣 界

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2014.7.15 VOL.18

発行人 深海 信彦  
 発行人 全国刀剣商業協同組合 編集委員会  
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10  
 新宿スカイプラザ1302  
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089  
 http://www.zentosho.com/

第18号編集担当  
 赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生  
 大平 将広 川島 貴敏 嶋田 伸夫 清水 儀孝  
 生野 正 新堀 賀将 土子 民夫 網取 譲一  
 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦 藤岡 弘之  
 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏

## 銃砲刀剣類登録審査会で何が変わったか 東京都

刀剣・書画・骨董

### 和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16  
 TEL 0258-33-8510  
 FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商

### やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」  
 年間10回位発行予定  
 購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10  
 TEL 042-463-5310  
 FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

### 柳匠堂

### 柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八  
 TEL 〇八六-二二二二-二二二九  
 工房 岡山市北区磨屋町七二二  
 TEL 〇八六-二二二二-二二二九  
 FAX 〇八六-二二二二-二二二九

刀剣古美術

### 三峯美術店

### 町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一  
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内  
 TEL 〇四九四-二二二-三〇六七  
 FAX 〇四九四-二二二-三〇六七

美術刀剣、小道具、武器類の  
 売買、加工及び御相談承ります

### 大阪刀剣会

### 吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一  
 TEL 〇六一六六三二二二二〇  
 FAX 〇六一六六四四一五四六四

# 刀 剣 界

受付時間および順番の一例

グループ (仮称)	指定 集合時間	指定 予定期間	順番等				
			集合 受付時刻	1	3	5	12
A	9:30	10:00 ～ 11:00	集合	1	3	5	12
			受付番号	1	2	3	*
B	10:30	11:00 ～ 12:00	集合	4	6	7	11
			受付番号	1	2	3	4
C	11:30	12:00 ～ 13:00	集合	2	8	9	10
			受付番号	1	2	3	4

した十二番目の希望者は、本来の集合時間は十時三十分だが、自分の指定審査予定期間内に入庁できたので、グループBの最

後に審査を受けることができる(要事前連絡)。ほかに、十二時五分に入庁した十二番目の希望者は、本来の集合時間は九時三十分だが、混雑状況を勘案してグループCの中で審査を受けることができる場合がある(要事前連絡)。従って、自分の指定審査予定期間に準じた上での先着順ということになる。従来であれば完全に先着順で、至ってシンプルな仕組みだったが、四月からは以上のような受付番号の割り振りとなったため、極端に早く来たり遅く来たりしても、待ち時間を短縮できるわけではないので、ご注意ください。これはあくまで解説のための

一例なので、実際の審査会では、進捗状況によって順番に多少の前後がある可能性が高い。審査テーブルも三〜四組あり、一組一振として十〜十五分をめぐりに、一グループ当たり十数組の審査希望者の割り振りや通知が来るとみる(午前中の場合)。今後の審査会の予定は、七月十九日、八月十六日、九月二十日、十月十九日(日)、十一月十五日、十二月二十日、一月十七日、二月二十一日、三月二十一日。古式銃砲の登録審査会は奇数月のみ。平成二十七年四月以後の日程は未定。なお、文化財保護係の話によれば、来年の二・三月については日時・会場などに変更の可能性があるので、それらの情報も追って報告したい。

## 「大刀剣市2014」がスタート

組合の通常総会の行われた五月十七日、「大刀剣市2014」実行委員会がスタートした。主たる業務はカタログ作成と会場運営ですが、出店舗に新規、休場、退場があり、会場の確定作業に時間を要します。店舗ブースの広さが何種もあり、ガラスケースの大きさ、配置などにもさまざまなパターンがあります。利用料金も一律ではありません。なるべく猛暑の七、八月の活動を避けるため、従前より早い準備開始となりそうです。大刀剣市は、大手町の旧サンケイ会館での開催から二十四回

を数えます。最初の開催は、サンケイビルの広い会議室を合体させたような、やや天井の低い会場でした。天井吹き抜けの本格的イベント会場、サンケイホールでの開催は第五回ぐらいからでした。ほとんどサンケイホール建て替えの件などがあり、現在の東京美術倶楽部開催が定着しました。サンケイビルでのスタート時は二十数店舗でしたが、美術倶楽部開催のころは三十店舗を超えていたようです。もちろん三階ワンフロアでのスタートです。その後、執行部・実行委員による出店要請(通称「肩叩き作

用されることのない刀剣類だけが銃砲刀剣所持等取締法の厳しい規制の下に置かれています。登録されているのは、「美術品」として価値のある刀剣類ですが、それが危害予防を目的とする銃刀法によって縛られているという大いなる矛盾があるのです。どうやら刀剣が銃刀法という法律の対象であるだけで、世間から誤解され、恐れられているのは、否定できないようです。今回の古美術商殺人事件の報道姿勢は、このような背景があるために起きたのだと考えます。また、現状では偏見報道は後を絶たないでしょう。銃刀法の施行から半世紀以上がたち、社会犯罪も日々変化しています。「日本刀と銃刀法のあり方」について、警察庁や文化庁、関係機関、刀剣関係者などが一堂に集い、真剣に討議する機会が実現することを願っています。(嶋田伸夫)

## 「ニュースを読む」

### 古美術商殺人事件

今から四、五十年前、殺人事件ともなればマスコミは連日、大々な報道をしていました。近年は、経済の悪化に伴い治安も悪くなり、犯罪が多発しています。凶悪な事件も続々と起き、庶民も犯罪被害と無縁ではいられない世情になってきています。

去る五月三日、東京都国立市で古美術店の店主が何者かに背後から刺され、殺害されるという事件が勃発しました。被害者の職業が美術商であり、また営業時間に店舗内で殺害されたと聞くと他人事ではなく、美術業界の誰もが驚くニュースとなりました。

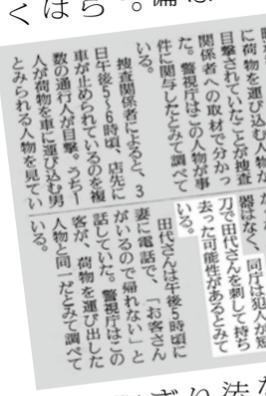
われわれ刀剣商の衝撃はそれだけで終わりませんでした。被害者は当日、個人宅から短刀を購入し、店舗に持ち帰っていたとのこと

と。その短刀が、店内にあったほかの美術品ともななくなっていたので、テレビや新聞は、短刀が殺害の凶器として使われた可能性があると警視庁はみている、と報じたのです。後日、警視庁に、短刀が凶器となった可能性があると会見で発表されたのかどうか確認したところ、そのような話はしていないと回答がありました。

日本刀は、その後に来る動詞の表現次第で、現状通りに美術品として扱われたかと思うと、問題のある表現が使われ、凶器としての違法性が疑われかねない事態さえ発生します。今回の殺人事件では、また詳しくわからない時点で、刀剣が凶器として使われたらしいと、一般の

誤解を誘導するような報道がなされています。しかし、犯人逮捕後、凶器として使われたのは、短刀ではなかったとわかりました。刀剣類が何らかの犯罪に関係して登場すると、その事件の報道の折、刀剣類をことさらに強調する傾向が見られます。このような報道の背景には、しばしば刀剣に対する偏見があるのです。今回の報道に限らず、刀への誤解は社会の中に根深く存在しており、それを取り除かない限り「刀凶器」という偏見はなくなりません。

頻繁に起こっている傷害事件の



店先に車荷物運ぶ人物  
古美術店主殺害 犯行時間帯に目撃情報  
東京都国立市、警視庁は、被害者が古美術店に訪れた際に、店先に車荷物を運ぶ人物を目撃したと報告している。この人物は、短刀を手に持ち、被害者を背後から刺したとされている。

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定  
**株城南堂古美術店**  
代表  
**田中 勝憲**  
〒153-10051  
東京都目黒区上目黒四-3-110  
TEL 03-3771-0176  
03-3771-0177  
03-3771-0178  
FAX 03-3771-0177

# 第27回通常総会を開催

夏の始まりを告げる三社祭が  
 催行される五月十七日(土)、東京  
 美術倶楽部において全国刀剣商  
 業協同組合は第二十七回通常総  
 会を開催した。

四階の会場には、早朝より全  
 国各地から多数の組合員が参集  
 された。定刻の十時、司会を務  
 める松本義行氏から本日の出席  
 状況の報告があり、組合員総数  
 百八十三名中出席百二十九名  
 (内訳出席五十四名、委任状七  
 十五名)であるから出席者が過  
 半数を超え、総会は成立するこ  
 とが告げられた。

続いて猿田副理事長が開会の  
 辞を述べ、次いで深海理事長か  
 ら挨拶の弁があった。  
 その後、議長の選出に移り、  
 司会がその方法出席者に諮った  
 ところ「司会一任」の声があ  
 ったので、司会は理事長を議長  
 に選任し、直ちに議案の審議に



第27回通常総会の会場風景

入った。

出席された組合員の協力によ  
 り、第一号議案から第八号議案  
 まですべてが満場一致で可決さ  
 れた。議案は次の通り(カッコ  
 内は説明者)。

- 第一号議案 平成二十五年度  
 事業報告承認の件(清水専務)
  - 平成二十五年度会計報告承認の  
 件(伊波常務)(会計監査/笠  
 原・佐藤両監事)
  - 第二号議案 平成二十六年度  
 事業計画案決定の件(清水専務)
  - 第三号議案 平成二十六年度  
 収支予算案決定の件(伊波常務)
  - 第四号議案 役員報酬の件  
 (服部常務)
  - 第五号議案 経費の賦課およ  
 び徴収に関する件(服部常務)
  - 第六号議案 平成二十六年度  
 借入金残高の最高限度額に関す  
 る件(服部常務)
  - 第七号議案 一組合員に対す  
 る貸付け、又は一組合員の為  
 する債務保証の残高の最高限度  
 額に関する件(服部常務)
  - 第八号議案 その他
- なお、第二号議案に関連し  
 て、「明美ちゃん基金」(難病に  
 苦しむ子供たちへの基金)の名  
 称が長きにわたり使われてい  
 て、今では認知度が低いのでは  
 ないかとの質問がなされた。深  
 海理事長より産経新聞社訪問の  
 折、その旨を尋ねるとの答弁が  
 なされた。
- 最後に眞賀副理事長から閉会  
 の辞が述べられ、第二十七回  
 通常総会は滞りなく終了した。  
 (清水儀孝)



## 風向計

其之十三 深海信彦

前号の本欄でも触れたクラブ  
 などの「ダンス営業」が、つ  
 いに規制緩和に向けて今秋にも  
 法制化が検討されているとい  
 う。既に第十七号をお読みの読者に  
 は重複して恐縮ではあるが、昭和  
 二十五年施行の銃刀法銃砲刀剣  
 類等所持取締令の刀に対する法  
 運用が、時代即して緩和の方向  
 に向かうことを願っている刀剣  
 関係者にとっては、うらやまし  
 い限り、事例ゆえに繰り返すを  
 とわず、あえて取り上げてみた。

今年の四月二十五日、公安委  
 員会の許可を受けずに客にダン  
 スをさせたとして、風俗営業法  
 違反の罪に問われ、懲役六カ月  
 罰金百万円を求刑されたクラブ  
 経営者が、大阪地裁での判決公  
 判で無罪を言い渡された。  
 このニュースを聞いて普通の  
 人が思ふことは、警察の摘発に遭  
 えば、量刑の如何を問わず有罪は  
 必至であり、現行犯逮捕された  
 からには無罪放免ということ  
 あり得ないということ、風俗  
 法違反で懲役六カ月とは重い刑  
 で、営業停止が罰金では済ま  
 れないほどの悪質な常習犯であ  
 ること、この二つであろう。  
 ところが、裁判長は、規制の対  
 象となるその営業の内容につい  
 て「客のダンスの動きなどの具体  
 的な行動に照らし、性風俗を乱す  
 恐れがあるか否かを総合的に判  
 断すべきだ」と指摘し、その時の  
 店内の状況を判断した上で、風俗  
 法の規制対象ではなく、許可も必  
 要ないと結論づけたのである。

取り締まりに当たる側も、違  
 法性を具体的に立証する困難さ  
 もあったのであろうが、世の中  
 の流れに即した法運用を行う必  
 要性を認識したのであろう、警  
 察庁は、原則午前零時以降の営  
 業を認めないクラブなどの  
 ダンス営業について、営業時間  
 を翌朝までとする方向で検討す  
 ることを決めたという。そして、  
 今後、有識者会議の議論を踏ま  
 え、今秋にも風俗法の改正案を  
 国会に提出することが決まった。

警察庁では、さらに踏み込ん  
 でダンスをさせるクラブを、営  
 業時間・地域を限定している  
 「風俗営業」の対象から外すこと  
 も検討しているが、周辺住民の  
 環境への配慮から、クラブに騒  
 音苦情等に対する対策を徹底さ  
 せることなどを規制緩和の条件  
 に盛り込む考えであるという。  
 これを受けて政府の規制緩和  
 改革会議は、安倍首相にダンス  
 をめぐる営業時間の緩和を検討  
 するよう提案したが、これは二  
 〇二〇年東京オリンピック開催  
 に向け、クラブを観光資源とし  
 て活用する狙いもあり、古屋国  
 家公安委員長は秋の臨時国会で  
 の法改正案の提出を目指すこと  
 を明らかにしている。

成を強化する環境を整えたい意  
 向を示した。射撃競技に適性や能  
 力がある児童を各競技団体が選  
 定し、八歳から空気銃を使用でき  
 るようにすることを求めたもの  
 で、火薬を使った銃については通  
 常の十八歳から十四歳に引き下  
 げるよう、併せて要望している。  
 これらの要望が認められるか  
 否かについては今後を見守るし  
 かないが、オリンピックでの成  
 績向上を図るといふことを機に、  
 射撃人口の減少著しい関係諸団  
 体などが、復活を期して活動を  
 起こしたことに間違いはない。  
 このように、時代の流れや国家の  
 都合を斟酌して法改正が検討さ  
 れる例は、枚挙にいとまがない。

銃刀法に関しては、①所持す  
 ることそのものが禁止されてい  
 る拳銃などの違法武器の取り締  
 まり、②所持する人にだけ与え  
 られる狩猟用や競技用の銃に適  
 用される所持許可制、③登録を  
 受けた刀剣類等は誰でも所持で  
 きる登録制、この三つが一つの  
 法律の中にあるため、テロ等や  
 重大事件の警備対策の強化に登  
 録刀剣までが対象になることも  
 あり、美術品として広く認知さ  
 れているにもかかわらず、依然  
 としていわれない敵しい扱い  
 を受けているように感じられる。  
 銃刀法第十七条①の所有者変  
 更届に対する当局の対応に見ら  
 れるように、美術的価値を認めら  
 れた登録刀剣は文部・文化行政  
 の一環であり、各都道府県の教育  
 委員会がその管理に当たる立場  
 にあるはずである。しかし、善意  
 の所有者変更の届け出に対して、  
 文化財保護の見地としてよりも、  
 登録証が交付される以前の状態

と同様の警察管理に安易に差し  
 戻す傾向が見られることがある。  
 これでは、われわれの扱った刀  
 剣が、違法武器や無登録刀剣と  
 同様の印象を受け、所有者変更  
 届の義務のない他の美術品と比  
 べると、所持に関してはあまり  
 にも厳しいものがある。

美術的価値のないものは登録  
 刀剣に値しないのは当然である  
 が、わが国の貴重な文化遺産と  
 して価値が認められ、登録証が  
 交付された刀剣は、それでは一  
 体誰が守るのであろうか。国の  
 どの法律で守られるべきもので  
 あろうか。国宝・重文には文化  
 財保護法が適用され、その移動  
 には文化庁が乗り出して、  
 国の指定・認定を受けていない  
 その他の刀剣は、まさか警察の  
 管轄ということではあるまい。  
 ダンスの営業も、空気銃の所持  
 も、みんな法律で守られており、  
 時代とともにその法運用に変遷  
 が見られる刀剣に関する改革は、  
 国の認可を受けている全国刀剣  
 商業協同組合が孤軍奮闘してい  
 るが、美術品保護の見地からこれ  
 をバックアップしてくれる省庁  
 がなく、その力はあまりにも小  
 さい。所管行政庁の警察庁に訴えて  
 もあまりにも所管が異なり、糸口  
 さえ見つけ得ない。「日本遺産  
 である刀剣を守るため、一体誰か  
 一緒に立ち上がってくれないか。」  
 刀剣の持つ歴史的・美術的価  
 値や社会的有用性は計り知れな  
 い。所持に関する規制緩和は、  
 決して難しい問題ではないと考  
 える。刀剣界全体で大きく正し  
 い動きを起こし、刀に対する認  
 識を新たなものにしていきたい  
 ものである。

刀剣・小道具・甲冑武具  
**飯田高遠堂**  
 代表取締役 飯田慶久  
 〒161-0033  
 東京都新宿区下落合3-17-33  
 TEL 03-3951-3312  
 FAX 03-3951-3615  
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本  
**松本 富夫 義行**  
 〒278-0043 千葉県野田市清水199-1  
 TEL 04-7122-1122  
 FAX 04-7122-1950  
[www.touken-matsumoto.jp](http://www.touken-matsumoto.jp)

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑  
 日本の伝統文化を彩る  
 JAPAN SWORD CO., LTD.  
**(株) 日本刀剣**  
 伊波賢一 Ken-ichi Inami  
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1  
 TEL 03-3434-4321  
 FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**  
 〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11  
 松崎煎餅ビル4階  
 (株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏  
 TEL 03-3563-2551  
 FAX 03-3563-2553  
 フリーダイヤル 0120-402037  
<http://www.taibundo.com>

**刀剣 高吉**  
 古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!  
 連絡先 **090-8845-2222**  
 代表者 高島吉童  
 東京都北区滝野川7-16-6  
 TEL 03-5394-1118  
 FAX 03-5394-1116  
[www.premi.co.jp](http://www.premi.co.jp)

# 刀 剣 界

## 特別報告

### 「エヴァンゲリオンと日本刀」パリ展

刀匠 月山 貞伸

四月三十日から六月二十一日まで、パリ日本文化会館において「Evangélon et les sabres japonais」(エヴァンゲリオンと日本刀展)が開催されました。

今回の海外展は国際交流基金(パリ日本文化会館)とABCミュージアム(スペイン)の主催により、長船刀剣博物館で始まった日本での巡回展「エヴァンゲリオンと日本刀展」そのままの作品に加え、林原美術館、長船刀剣博物館などの刀剣や甲冑を展示することになりました。

展覧会開催に向け、国際交流基金の永田絢子氏、長船刀剣博物館学芸員の植野哲也氏、装剣金師の木下憲宗氏とともに、私も展示要員として同行させていただきました。

会場のパリ日本文化会館は、パ



「エヴァンゲリオンと日本刀展」を視察する安倍総理と解説する竹内館長(内閣広報室提供)

リは通常展示の場合、刀身や拵の表面だけをきれいに展示することが多いのですが、外国では作品の全体を見たという方が多いようです。今回このような展示となりました。

また、照明にも大変こだわりの強い、会場全体が暗い雰囲気の中、作品の一つ一つが浮かび上がるように、アクリルにも一切の照明の反射や映り込みがないよう工夫されていました。しかし、日本刀の展示においては、照明の良しあしで作品自体が全く見えなくなってしまうこともあります。おまかに地鉄や刃文への照明の当たり具合などをスタッフに説明すると、早速その点も配慮され、次第にそれぞれの作品の質感が日本で見ると相違のないものになっていきました。

メイソンのロンギヌスの槍の展示角度や、甲冑や兜の展示バランス、それぞれの作品の間隔など、木下氏を中心とした展示メンバーも現地の方々の熱意に負けじと、慎重かつ丁寧に、少しでも来場者に魅力が伝わるように工夫しました。作業四日目は日本刀の説明や、作品に携わった職人のバナー、製作工程の映像、エヴァンゲリオン初号機やレイ・アスカといったキャラクターのフィギュア、アニメの原画パネルなどの展示もほぼ完了し、会場全体の雰囲気が一層高まりました。

内覧会前日には日本から国際交流基金や、エヴァンゲリオンを管理するクラウドワークス社の担当の方々が到着され、今回の展覧会コーディネーターであるイタリア在住の平井智氏を交え最終チェック、細かな修正点を踏まえ、パリ展独特の素晴らしい会場が完成しました。その夜、パリ日本文化会館の竹内和子館長との懇親の席では、パリには親日の方が多くいらっしゃることも、さまざまな分野の方が展示会や講演などを通して日本文化啓蒙に尽力してこられたこと



刀身彫刻を披露する木下憲宗氏と見学者

を間近で見ようとする方であふれ、次々に質問も飛び交うなど、最後まで熱気に包まれました。私も応対などをお手伝いしていたところ、祖父(月山貞一)の写真を持った方が話しかけてこれ、大変感銘を受けました。来場された皆さんは日本の伝統職人に高い関心を持っておられ、日本刀に携わる私たちにも尊敬の念を持って接していただけたことは心より感謝することです。講演と実演は定員六十名でしたが、両回とも満席になり、盛況で終わることができました。私たちは翌五月二日に帰国したのですが、五月五日、何と欧州を歴訪されていた安倍総理が日本文化会館を訪れ、「エヴァンゲリオンと日本刀展」を視察されたとのビッグニュースが飛び込んできました。その中で総理は、「現代のアニメと古くからの刀工技術をコラボするというのは、世界に発信していく新しい一つの形だ」とおっしゃっていました。

「エヴァンゲリオンと日本刀展」はパリ展終了後、スペインのABCミュージアムにて開催されます。日本での開催では、愛刀家の方々の高齢化というのを考えると、より多くの若い世代に日本刀を見ていただき、少しでも興味を持ってもらうことが必要だと感じています。今回パリ展に同行し、世界的に認知されている現代の日本文化の代表であるアニメと伝統文化の象徴である日本刀がコラボする意義は、まさしく首相が指摘されたように日本を世界にアピールしていく上で大きな要素になっていくことであると、あらためて感じました。私自身も大きな展望を持って、その目標に向かって、一層の研鑽に努めてまいります。

## 映画 天心 松村克弥監督に聴く

■今から百年前、失われゆく「日本の美」を救った男、岡倉天心。その天心と若き天才画家たちとの魂の物語が話題を呼んでいる。震災からの復興を祈念し、製作した松村監督に聴いた。(T)



再建された六角堂と船上の天心(竹中直人)

私はドキュメンタリーで横山大観の製作に助監督として参加したことがあり、大観をもう一度撮りたいとは思っていましたが、率直に言って、天心は思いもよらなかった。それが、あるとき、同席していた銀座の画廊主の「天心が見たい」の一言で、映画人の気持ちに火がついてしまったというわけです。しかし、映画会社もテレビ局も全く乗ってくれません。当てにしていた製作資金は、二〇〇八年のリーマン・ショックで潰れました。そこで製作委員会を組織し、一口一万円寄付を募ることにしました。一万人の支援者の獲得を目指したのです。そして、一年三月十一日の東日本大震災。天心が建てた五浦の六角堂は津波で流出、地元北茨城市では六人が死亡、一人が行方不明になるなど、大きな被害に見舞われました。これで夢は終わった、と思いましたが。映画は、日本美術院の五浦移転を主な舞台とし、現地でロケを予定していたからです。六角堂は昭和三十年、岡倉家から大観を通じて茨城大学に寄贈され、五浦美術文化研究所がその管理に当たって来ました。消失した六角堂は「文化財被災のシンボル」と受け止められましたが、池

# 平成会熱海大会

日本列島で最も早く咲く桜として有名なあたみ桜は、明治四年ごろ熱海にもたらされそうである。開花の時期は一月下旬から二月と、早咲きの寒桜として名高い。そして桜は四月のソメイヨシノへとバトンを渡し、熱海は一年で二度目の春を迎える。

そんな熱海の春の最後を締めくくる四月十日、黒潮に運ばれてきた初夏の香りが漂う絶好の季節を迎えた地で、平成会熱海大会が定宿である「あたみ石亭」で盛大に執り行われた。

平成会の歩みは古く、前身の諏訪会創立から優に三十年以上を数える。平成会のモットーは堅実の一言に尽きる。これは創立時から理念であり、その考えは現在も変わることなく受け継がれている。

近年続いた事故の余波もあり、昨年は大会の開催自体が危ぶまれたが、役員が一丸となり、この逆境を跳ね返すべく立ち上がった。役員には厳しい売買縛りも課され、まさに背水の陣の覚悟で臨んだ昨年の結果が大成に終わったことは、いまだに強烈な記憶とともに語り継がれている。厳しい時期だからこそ刀剣界を盛り上げなくてはならないという、役員の方々の気概の勝利であろう。

そして今年もまた、もはや伝統となつてある役員売買縛りの下、平成会熱海大会が盛大に開催された。会場には開始時刻を待ち切れない熱気があふれ、朝十時きっかりに会長代行の高橋歳夫氏の挨拶から競りに入った。午前の成り行きから始まり、生ぶ荷に会場は瞬く間にヒートアップ、午前のトリは最大大業物の所載百四、締めた。午後の部前に、役員の実質吉也氏の進行で朝倉万幸会長より、当会の発足以来役員を務めた小澤



正晴氏の役員退任が発表され、その功労をたたえての表彰と記念品の贈呈が行われた。小澤氏が今年八十歳を迎えるとの紹介に会場がどよめき、「まだまだ頑張る」との言葉に「自分も負けていられない!」と思ったのは私だけではな

いであろう。午後生ぶ荷の成り行きから始まり、重要刀剣や名品の入札もあり盛り上がりを見せた会は、締められては五十六万六千円という出来高を叩き出した。

これは昨年に引き続き目標を大きくクリアした数字であり、その背景には役員をはじめ会員の方々の並々ならぬ努力と協力があることは明白である。こんな時代だからこそその結束の強さを、まざまざと感じた大会であった。

(大西芳生)



熱気にあふれる競り会場

味の4  
うんちく

## ジャカルタ

松本義行

刀剣商になる前サラリーマン時代の二〇〇三〜〇八年に駐在したジャカルタのことをお話しします。インドネシアの首都ジャカルタは、成田から飛行機で約七時間で、近年目覚ましい経済発展を遂げています。当時は、日系企業の駐在員とその家族が約一万人の邦人が住んでいました。

インドネシアというとバリ島に行かれた方も多いでしょうが、バリはヒンズー教徒が多数を占める国際観光都市で、ジャカルタとは違います。インドネシアの人口は二・三億人。大多数がイスラム教徒で、世界最大のイスラム人口国として知られています。日の出前から一日五回、街中至るところにある礼拝堂から、アザーンという礼拝の呼び掛けがスピーカーで響き渡ります。

私はイスラム教お祈りの経験はありませんが、アザーンが生活に同化リズムになっていました。彼らは、毎日五度のお祈りをメッカに向かって欠かさず行います。ラマダン断食月には日の出から日没まで食事や水も摂らないので、彼らの前で飲食することは避けられます。

交通渋滞が有名なジャカルタでは、小型バイクに家族四人を乗せて走る姿や、屋根に人を乗せて走る電車やバスの光景も珍しくはありません。日本であればすぐに警察に止められることも、こちらではお構いなし。雑然とした賑わいの街です。

日本では「ただ」が当たり前の水と安全、ジャカルタでは違います。決して水道水を飲むことはありません。駐在していると、やがて免疫力がついて簡単には腹痛を起こさな

いようになります。しかし日本から来る出張者は、うっかり歯磨きに水道水を使うなどして、出張中まるで仕事にならないということが度々でした。

治安が悪いので、駐在員とその家族は強盗やスリに遭わないように、ガードマンのいるアパートやショッピングモールから外に出歩くことはありません。大通りの反対側わずかな距離でも、ドライバ

ーを呼んで車で移動します。歩いたら数分で済むところでも、渋滞しているときなど何十分もかけて移動します。カゴの中の鳥のように、行きたいところに自由に歩いていけないことは大きなストレス

です。政治が悪いので、駐在員とその家族は強盗やスリに遭わないように、ガードマンのいるアパートやショッピングモールから外に出歩くことはありません。大通りの反対側わずかな距離でも、ドライバ



ジャカルタに駐在当時の筆者(右から二人目)

その一方、一般の駐在員でも考えられない贅沢な暮らしぶりでした。プールにジム、テニスコートのあるアパートで暮らし、住み込みのお手伝いさんと家庭車の運転手を雇います。掃除・洗濯・炊事に運転までやってもらう生活。墮落しないかと気になりますが、貧富の差があるため雇うことが当たり前

でした。彼らの月給はそれぞれ日本円で七千円と一万三千円ほどだったでしょう。当時のリビング・コストは、日本の五分の一という印象です。何かと我慢を強いられる生活でしたが、セブな生活が見返りにありました。

そして、日本に帰任したのはリーマン・ショックのとき。すぐに夢から覚めると、普通のサラリーマンに違和感を覚え、一念発起して夢を描ける刀剣商に転身しました。しかし、稼ぎが五分の一になったのは皮肉なことでした。

田幸雄学長(当時)は「東日本大震災からの復興の象徴にしたい」と再建を決断、復興基金を創設して寄付を呼びかけたのです。二二年四月、六角堂は完成しました。六角堂再建運動の広がり、映画「天心」の後押しもしてくれました。北茨城市は「復興を象徴する映画になる」と、日本美術院研究所などロケセットの建設費二千万円を拠出していただきました。県内の自治体や企業、市民団体からも次々と支援の申し出があり、趣旨に賛同した竹中直人さん、中村獅童さん、渡辺裕之さんら出演者も決ま

ていきました。また、当地出身の石井竜也さんは、主題歌「亜細亜の空」を無償で提供してくださったのです。こうして

映画「天心」は、没後百年にして完成を見ました。個人的な話で恐縮ですが、私の生家は上野仲町通りにあった丸万旅館で、その前身は、森鷗外の『雁』や吉村昭の『彰義隊』に登場する料亭の松源です。松源には二百畳の大広間もあったそうで、上野戦争の折には官軍がここから敵陣を砲撃しました。そのために戦後、松源は江戸っ子から嫌われて経営が傾き、その後を引き取ったのが私の曾祖父です。『夏雄と勝兵衛』(至文堂)には店前で写した錚々たる工芸家の集合写真が載っています。が、天心も東京美術学校からの帰

## 西日本甲冑会春季大会を開催

五月晴れの空の下、五月二十日、フクラシア東京ステーション(朝日生命大手町ビル)にて西日本甲冑会春季大会が開催されました。現在、NHKテレビで「軍師官兵衛」が放映されているので、自然と甲冑にも目が向きます。この機会に、一般の方も甲冑などにも

興味を持っていただけたらいいなと思います。さて、会場には所狭しと品物が並びます。甲冑が飾られ、名品や珍品も多数あり、それでも並べ切れないで段ボール箱に収まっています。会主の廣谷大輔さんは会が始まる前、それらすべての品物を



多くの出品で賑わった

没していません。五浦での離伏の時代、天心と彼を慕う人々の思いが、この映画を通して多くの方たちとの出会いに導いてくれたと思えてなりません。くしくも春草生誕四百年に当たる今年九月二十三日〜十一月三日、東京国立近代美術館において春草の大回顧展が開催されます。彼らの魂に触れるべく、本展と併せて映画「天心」を観賞願えれば幸いです。(談)

詳細は映画「天心」公式サイト <http://eiga-tenshin.com/>



手前から木村武山・菱田春草・横山大観・下村観山を演じるキャスト

観は既に四十歳でしたが、漁村に住みながら魚を買う金もなく、餓死寸前であつたと回想しています。春草は、大観が「一生かかってもかなわない」と嘆くほどの才能でしたが、三十八歳の若さで

# 刀 剣 界



## 古河歴史博物館 歴史薫る古河の街並み

学生のころ、休みを利用して、ゼミの仲間と史跡を探索する小旅行をしていた。あるとき、旅先に茨城県古河市が選ばれた。関東戦国史の研究をしている先輩の提案によるものだった。江戸時代、日光街道の宿場町として栄えた古河には、戦国時代、古河公方がいたのである。

てられた同館は素敵な外観の建物で(一九九二年日本建築学会賞作品賞、九六年公共建築賞を受賞)、充実した常設展からは古河の歴史と文化を学ぶことができる。

とりわけ面白かったのは展示室1「鷹見泉石と洋学」。古河藩家老の鷹見泉石といえは、渡邊華山筆の肖像画が武家の式正の拵の様子を知る上で好資料であり、また固山宗次の作中に鷹見一族の需打があるなど、刀剣・刀装の世界でも馴染みは深い。

渡良瀬川の河川敷に立って、今は影も形もない戦国期の古河城を偲び、「あの犬塚志乃と天飼現八が対決したのもこの古河城ということになっている」と感無量でつぶやく先輩を尻目に、川面の石投げに興じる筆者であった。

さて、薫風に誘われて、懐かしい古河を再訪し、古河歴史博物館を見学した。古河城の山城跡に建



庄重な古河歴史博物館のエントランス

れているのと、武士としても立派な仕事をしていたことがわかる。そして杉田玄白や大槻玄沢ら蘭学者や他藩の家老、兵学者、漂流民、中国人やオランダ人商館長など、交流も多岐にわたり、黒船の来航の際にも的確な意見を述べている。

その魅力的な人物像を伝える展示品に、思わず「すごいなあ」と感嘆の声が出る。

関係の資料を豊富に集めている。また、大坂を揺るがした大塩平八郎の乱では、首謀者大塩の足取り捜査と捕縛を指揮。展示されていた捕方棒は、室内での捕物を想定して通常の半分長さとき

二坪とゆとりある広さ。ガラス棚に整然と収められている刀剣六十振が行き届いた照明で輝きを放ち、見比べやすく展示されています。また、豊富に置かれている骨董品の中には人間国宝の焼物などもあり、好奇心をそそられます。

### 小島昇さん

## 刀剣商リレー訪問⑱ モットーは「お客さまの喜び」



秀美堂美術店の小島昇さん

都心から約一時間、まだ田畑が混在する計画都市吉川市の中心部、武蔵野線吉川駅北口より徒歩一分の場所に、秀美堂美術店があります。「美術刀剣・骨董販売買取」の看板が目飛び込んできますので、迷うことはありません。車で訪問しても、広い駐車場がありますので心配無用です。五年前に新装開店した店舗は二十

「九割は刀剣客だけど、客が入りやすいように何でも置いてある」という店主の小島昇さん。好きで始めたこの道三十五年、独学でここまで築いてきたそうです。モットーを尋ねると「お客さまに喜んでいただくこと」と即答で返ってくる。小島さんの実直な人柄がうかがえます。店の奥にはゆっくり談話できる畳敷きのスペースも設けられており、気軽に通いたくなるお店です。(松本義行)

■秀美堂美術店 Ⅱ 342-0004  
1 埼玉県吉川市保一 311-0048  
048-981-1501

四月二十六日に始まった葛飾区郷土と天文の博物館での「日本刀の美と技ー葛飾の名工たち」が六月十五日をもって好評のうちに閉幕した。

葛飾区は日本刀の現役職人が集まる町で、刀匠の吉原義人(東京都無形文化財保持者)・吉原国家(同)・大野義光・吉原義一、研師の高岩節夫(葛飾区無形文化財保持者)、白銀師の宮島宏(同)の六氏が活躍している。

今回の企画展では、各氏の作品や製作工程、道具類などを展示し、日本刀の優れた技が理解できるよう工夫された。また週末には、記念講演会「日本刀への誘い」(刀剣博物館主任学芸員・久保恭子氏)、「日本刀の特徴と作り方」(吉原義人氏)、実演会「日本刀の研ぎ」(高岩氏)、「鍔の製作」(宮島氏)、イベント「五寸釘でペーパーナイフを作ろう」(吉原国家氏)が開催され、それぞれ熱心な参加者で盛況だった。

同館が日本刀をテーマに取り上げるのは初めてというが、入場者からは「地元で刀匠や研師がいるとは聞いていたが、見るのは初めて。これからは定期的に開催してもらいたい」との声も聞かれた。



美しい阿蘇の山々と、水と緑豊かなふるさと

一の宮町は全国でも珍しい横参道の門前町で、外輪山からの伏流水が町の至る所に清らかな湧水となって湧き出し、昔から飲み水や生活用水として恩恵を受けてきた。水温は年間を通してほぼ十四度と変わらない。

門前町通りの道端にはたくさん水基があり、「ご自由にお飲みください」の看板とともに、阿蘇の神話や民話が紹介してあり、憩いの場ともなっている。

夏ですがすがしい高原の風と数え切れぬくらい多くの温泉、車で十分ほどの距離に十一のゴルフ場、おいしい赤牛のステーキ、溪流でのヤマメ釣り……。魅力いっぱい阿蘇へぜひお越しください。



## 熊本県阿蘇市一の宮町 火の国阿蘇の湧き水のある門前町

笹原俊和

「間もなく阿蘇くまもと空港です。シートベルトをお締めください」のアナウンスが機内に流れ、窓から外を見下ろすと、グラウンドキヤニオンばりの外輪山に囲まれた谷の中の盆地が見えくる。

碁盤の目のような田畑、水を張った水田は太陽の光に反射し、キラキラ輝いている。ところどころに集落や町並みも見える。

少し目を上げると、それまでのなだらかな緑の山々とは違つ、青く雄々しい五つの連山が見えてくる。阿蘇の五岳だ。

よく阿蘇山と言つけれど、阿蘇山という山はない。一番左のギザギザ頭は根子岳、次の最も高いのが高岳、今も噴煙を上げている中岳、そして烏帽子岳と杵島岳。この五岳を中心に、外輪山を含む方ルデラの全体を総称して「阿蘇山」と呼んでいるのである。

ちなみに、一番高い高岳の標高は、五九二メートルである。遠くから見る五岳の姿は、お釈迦さまの五臓の姿に似ている。

迎様の涅槃像によく似ている。初秋の朝、気温が下がると霧が発生し、阿蘇谷を埋め尽くし、波打つ雲海となる。その雲海の上にくっきりと五岳が横たわり、まさに涅槃像となる。

この涅槃像の懐で、阿蘇神社(旧官幣大社)を中心に栄えてきたのが、阿蘇一の宮町である。

阿蘇神社の始まりは孝靈天皇九年(紀元前二八二年)と伝わり、健甕龍命をはじめ十二の神々を祀る。健甕龍命は阿蘇開拓の祖であり、神武天皇の孫に当たると言われる。ここは全国五百社を超える阿蘇神社の総本社で、代々、阿蘇氏が宮司職を務めている。

戦後の混乱で行方不明になってしまったが、重要文化財(旧国宝)の磐丸(銘来国俊、永仁五年三月一日、刃長三尺三寸四分五厘)の大太刀と、同じく重要文化財の牡丹造短刀は、当神社伝来の宝物である。

一の宮町は全国でも珍しい横参道の門前町で、外輪山からの伏流水が町の至る所に清らかな湧水となって湧き出し、昔から飲み水や生活用水として恩恵を受けてきた。水温は年間を通してほぼ十四度と変わらない。

ブック・レビュー BOOK REVIEW

幕末の木曾宿で  
櫛挽きの道を求める女の半生記

『櫛挽道守』

木内昇著 本体二六〇〇円十税 集英社

中山道妻籠宿に昔、お六とい  
う美しい乙女がいた。頭の病に  
悩んでいたお六が御嶽大権現に  
願掛けをしたところ、「ミネバ  
リで作った櫛で朝夕髪をくしけ  
れば、必ずや直る」と告げら  
れ、早速その通りにしたら、日  
ならずして病は完治した。その  
後、ミネバリの梳き櫛は御嶽宿  
仰や善光寺参りの旅人の評判と  
なり、「お六櫛」の名も全国に  
知られるようになったという。

お六櫛は飾り櫛や塗り櫛、解  
き櫛と異なり、髪や地肌の汚れ  
を取る実用本位の木地櫛である。  
三寸ばかりの幅に百本の歯が  
挽けるのは、一にミネバリの性  
質による。岩地の峰に張り出す  
ように生育することから、成長  
はきわめて遅く、水に沈むほど  
密で堅く、それでいて粘りがあ  
る。むしろ、その特徴を引き出  
せる匠の技があったことであ  
る。享保のころ、鳥井峠近辺の  
ミネバリを使って敷原宿でも盛  
んに産するようになったという。

『櫛挽道守』は、幕末の敷原  
でひたすら櫛挽職人の道を求め  
る女性・登瀨の半生記である。  
登瀨は父・吾助の櫛挽きに幼  
いころから憧れてきた。しかし、  
嫁いで子をなし、夫や家を支え



木内昇  
櫛挽道守  
(十子民夫)

あらかじめストーリーを明か  
すことは小説の興味をそぐか  
ら、これ以上は控えよう。  
作者の木内昇は『漂砂のうた  
う』で第一四四回直木賞を受賞。  
著書に『茗荷谷の猫』『浮世女  
房洒落日記』『笑ひ三年、泣き  
三月』『ある男』など。昭和  
四十二年、東京生まれ。

若者広場 15  
名刀に見る  
「自然」にあこがれる

石田四郎 國壽(刀匠)

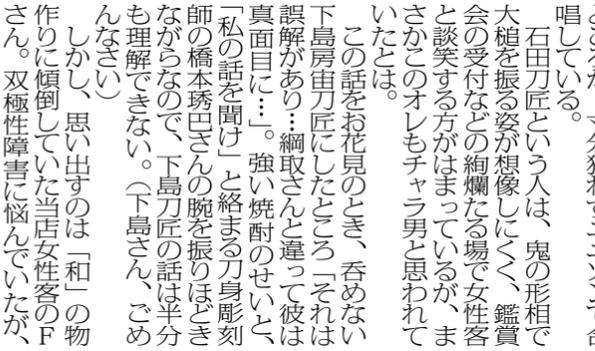
十七歳のときに偶然目にした短  
刀に魅かれ、奈良県の河内國平先  
生に弟子入りして六年。独立後  
群馬県富岡市に仕事場を構えて、  
はや十三年目になります。刀の世  
界で過ごした年月が、その前の年  
月よりも長くなってしまいました。

力強くも優美な姿に華やかな丁  
子乱れの焼かれた備前刀は理想で  
あり、その地鉄、姿、刃文を日々  
追いつめていきます。再現が難しい  
と言われる鎌倉期までの刀に近づ  
くために、鉄に関する勉強と実験  
的な鍛錬を繰り返して、ようやく面  
白くなりそうなものが見えてきた  
今日このごろです。

しかしながら長い作刀工程の中  
で、どこをどのようにつれば理想  
の姿に近づけられるのかはまだま  
だ暗模索の状態です。ところが、大  
変でありながら今最も面白いと思  
っているところがあります。

名刀と呼ばれる刀を見ている  
と、私はそこから、美しさや力強  
さといったもののほかに、何か、  
さまざまなイメージを感じます。  
言葉にするのは難しいのですが、  
それらがうまく調和し  
ていると、全体がとて  
も「自然」で安定して  
いる印象を受けるので  
す。

過去の刀匠が、それ  
らがある程度意図して  
作り出したならば、そ  
の根底にあるものは何  
なのか、知性や感性、  
性格や人柄といったも  
のなのか、とても興味  
があります。特に、刃  
文は目立つ部分であ  
り、その中に何を表す  
のかは全体に大きな影



(左手前から時計回りに) 石田國壽・工藤将成・吉田康隆・網取譲一・高橋恒蔵の各氏

■一筆啓上  
群馬県富岡市下丹生の住宅と農地  
が混在する地域に、石田四郎國壽刀  
匠の鍛錬場があった。近くまで迎え  
に来たのは石田刀匠ではなく高橋恒  
蔵刀匠で驚かされたが、合作刀の計  
画の話聞き納得した。

二つの公益法人に翻弄されるベテ  
ラン刀職者たちを目の当たりにし、  
合作刀の今後を憂い、群馬の若手刀  
匠三人が党派を超え集まっていたの  
だ。下鍛えを高橋恒蔵刀匠、火造り  
までを工藤将成刀匠の下で終え、こ  
の富岡で石田刀匠の土置き・焼き入  
れの最終工程を迎えようとしていた。

この号が出るころには世界遺産認  
定となる富岡製糸場を石田刀匠の案  
内で回ったが、木骨レンガ造りの工  
場内展示には、片倉家の重役と同様  
に縁の下で支え、優秀だった女工た  
ちにもスポットを当てている。

石田家も、祖父の代まで養蚕をし  
ていた。それが女性にも動植物にも  
優しい彼の人格を形成するに当た  
り、大きなポイントとなっているこ  
とは容易に想像できる。そこで……  
もう一筆啓上

「ギョハハ、それじゃ網取さんと  
同じだ」と伊波常務理事と持田理事  
が異口同音だ。これは編集委員会の  
席上、誰かが「女性とチャラチャラ  
している彼だ」とつぶやいた瞬間  
の二人のリアクションだ。異口同音  
どころか、寸分狂わずユニゾンで合  
唱している。

石田刀匠という人は、鬼の形相で  
大槌を振る姿が想像しにくく、鑑賞  
会の受付などの絢爛たる場で女性客  
と談笑する方がはまっているが、ま  
さかこのオレもチャラ男と思われて  
いたとは。

刀職紹介 第15回  
〈研師〉白田 修さん



白田修さんは、昭和二十八年生  
まれの六十一歳。高校を卒業後  
会社勤めのサラリーマンをしてい  
ましたが、研師になりたいという  
長年の思いを捨て切れず、人間国  
宝である故永山光幹先生を訪ね  
許されて入門しました。その後、  
八年の修業を経て地元坂戸市で独  
立。

刀剣研磨・外装技術発表会では  
優秀賞を四回、努力賞を四回受賞  
されるなど、現在に至るまで活  
躍です。

白田さんが研磨する上で日ごと  
心がけているのは「地鉄の緩み・  
荒れなどは、当てる砥石を段階ご  
とに根気強く合わせていくこと  
で、なるべく減らさぬよう、平均  
的になるように努力すること」だ  
そうです。

工作代金は、刀身の状態により  
異なりますが、基本的には一寸一  
万円からお受けしています。  
■連絡先 〓T350-0203 埼玉  
県坂戸市横沼二五八四 〓〇四九  
二八三三六六

川島 貴敏  
〈白銀師〉中田 育男さん



中田育男さんは、昭和二十八年  
生まれの六十一歳。大阪市西淀川  
区出身の中田さんは、子供のころ  
から刀が好きで、研師になる夢を  
持っていました。社会人となり、  
自動車の大手輸入ディーラーに勤  
務した後も、独学で研磨と白銀の  
勉強をされていました。

ある日、これはと思うものがで  
きた中田さんは、研師の大川晃永  
先生のところへ作品を持参しまし  
た。それをご覧になった先生は、  
「研ぎもいいが、むしろ錚の方に  
天賦の才がある」とおっしゃられ  
たのです。

それを聞いた中田さんは以後自  
らの道を錚一筋と決め、平成元年  
には脱サラして白銀師に転身。刀  
剣研磨・外装技術発表会では昭和  
六十二年から十五年連続で入賞さ  
れるなど優れた成績を収められ  
平成十三年に無鑑査認定を受けら  
れました。

中田さんが、工作を行う上で一  
番心がけておられることは、刀を  
傷つけないことです。そのため  
に、すんなりと刀身に納まりガ  
タのない錚を作ることを信条に  
ます。  
気になる工作料金ですが、素材  
や工作の内容により異なるので、  
お気軽にご相談・お問い合わせく  
ださい。  
■連絡先 〓T673-1304 兵庫  
県加東市長貞四五九 〓〇七九五  
四七二七四〇

# 刀 剣 界

私が出会った珍品・優品

土肥 富康

## 釘箱から出てきた則重

越中国の則重と言えは正宗十哲の一人とされ、相州伝を代表する名工である。

則重が正宗十哲と言われていたのは少し前の話で、現在では新藤五国光門という考えが通説であり、正宗と兄弟弟子とみるのが妥当であろう。

則重の妙技は地鉄であり、その鍛え肌の特徴がある。大板目が肌立ち、地景がしきりに入り、渦巻き状の肌を見せるなど、「松皮肌」と称される独特の肌合いを見せる。

私が今でも忘れられない則重の名短刀がある。それは私がまだ大阪刀剣会吉井の主人の元で修業していたころの話である。

その短刀は定寸で、やわふくらが枯れた鎌倉末期の体配となり、何と言ってもその地鉄が素晴らしい。これが松皮肌であるというお手本のような地鉄をしていた。刃中も砂流し・金筋しきりにかかり働きが多く、見る度に新しい発見がある最高の出来の短刀だった。

この短刀の由来に感動し、地鉄の働きに陶酔していると、主人がニタリと笑い、その短刀との出会いの話をしてくれた。

それは主人の先代がまだ健在のころ、いつもの通り店にいるとお客が入ってきて、いきなり風呂敷をひいて始めた。そして「この釘箱には刀のようなものが入っているが、こんなものでも金になるかね？」と尋ねてきた。

あることを先代は見抜いた。登録証が付いていない状態だったので、登録する方法を教え、登録が取れたときの値段を伝えた。

そうしたら、あまりの高値にビックリしたらしく、「家族と相談する」と言っていて、そとで短刀を持ち返ってしまった。

果たして売りに来てくれるかと心配していると、しばらくしてちゃんと登録を取った短刀を持ってきてくれた。買い取れた喜びも束の間、次は研ぎの心配だ。

キズは出ないか、出来はどうかと気をもむ一方、期待も膨らむ。研ぎ上がると、それは期待以上に出来のいい短刀で、キズもなく相州伝上工の名短刀が顔を表した。

まさか則重の正真正の短刀が、釘箱に入っていたよとは。作り話のような話である。何でそんな名刀が釘箱なんかに入っていたのだらうか？

則重の在銘の短刀など大名クラスの人しか持つことのできないはずで、もともとは大切にされてきたことであろう。それが、どんな間違いがあって釘箱に入ってしまったのか？

もしかしたら昔々に盗んできたものを隠していたのか、はたまた高貴の殿方が許されない恋をして相手の町女に守り刀として渡していたのか、敗戦のときの刀狩りから守るため釘箱に隠したまま失念していたのか、など、想像が膨らむ。

すると、「何ボツとしてるんや！」という主人の怒声に我に返り、仕事に戻ったのも、今となっては懐かしい思い出である。

## イベント・レポート

### 月山貞利刀匠が日本橋高島屋で個展

奈良県桜井市で作刀する月山貞利刀匠の個展が、七月九日から十五日まで、東京日本橋高島屋美術館で開催されました。

昭和二十一年生まれの貞利氏は、人間国宝だった父貞一師に師事。春日若宮社や伊勢神宮に作品を納める一方、大阪市立博物館・

奈良県立美術館・大阪歴史博物館・奈良市美術館などで同家の歴史や作品が広く紹介されました。

また、貴乃花・若乃花両横綱の土俵入りの太刀を製作、最近では横綱白鵬関に土俵入りの太刀を納め

るなど、広く活躍しています。今回の個展は「貞一貞利展」を経て、平成五年から七回目の高島屋催事となり、前出の白鵬関の太

脇指 大和住月山貞利彫同作(花押) 刃長三二・八cm



### 公益財団法人日本美術刀剣保存協会

#### 「新作名刀展」表彰式開催、四年ぶりに正宗賞

降り続いた長雨もやんで、受賞者の舞台に花を添えるかのように、つかの間の晴天となった六月十日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会の平成二十六年「新作名刀展」表彰式が同協会四階講堂において執り行われました。

蒙という公益活動の目的の下に開催していることの説明がありました。続いて、入賞者の表彰が執り行われました。

今年には正宗賞の授与があり、無鑑査刀匠の河内道雄氏が受賞しました。正宗賞は四年ぶりとなる偉業です。日本美術刀剣保存協会会長賞は、作刀の部で松葉一路氏が受賞し、賞状と賞杯、賞金、玉鋼が授与されました。

次に、六名の優秀賞受賞者の表彰がありました。作刀の部で高見一良氏、曾根寛氏、加藤政也氏、彫金の部で柳川清次氏、川島義之氏、福與裕毅氏がそれぞれ受賞し、八ツ橋透鑲を製作した福與氏が代表として登壇しました。

努力賞は、作刀の部で十五名、刀身彫の部で三名、彫金の部で二名の合わせて次の二十名の方々が受賞。代表して短刀を製作した木村光宏氏が登壇しました。

作刀の部 川下輝氏、高橋祐哉氏、小宮早陽光氏、北川哲士氏、森國利文氏、新保基治氏、安達茂文氏、高野弘氏、杉山俊雄氏、渡邊徹氏、小宮治氣氏、満足清次氏、松川隆氏、木村光宏氏、宮城正年氏、刀身彫の部 片山恒氏、柏木幸治氏、橋本太郎氏

今年出品総数は六十点。内訳は無鑑査が十三点、作刀の部が二十九点、刀身彫の部が三点、彫金の部が十五点でした。

初めに主催者を代表して小野裕会長より挨拶があり、本展は刀剣文化の伝統技術の保護と普及、啓

など、広く活躍しています。今回の個展は「貞一貞利展」を経て、平成五年から七回目の高島屋催事となり、前出の白鵬関の太

刀をはじめ、伝統の綾杉肌や刀身彫りの技術を結集した刀剣や小品、合わせて約三十点が展示販売されました。



平成26年度「新作名刀展」表彰式



お祝いの花束を受ける福士氏

### 福士繁雄先生の叙勲祝賀会開く

昨年の叙勲で刀装具研究の大御所福士繁雄先生が瑞宝双光章を受章されたことは、本紙第十五号でも詳しく紹介されています。

会を開催させていただきました」と申し出たところ、「誠にありがたい話ではあるが」と丁寧に断りになり、その後重ねてお願いした際、「来春、暖かくなつてから、名前と顔がわかるごとく内輪の方々のみでなら」との条件付きでようやく了承いただきました。

そこで、先生との関係が最も深い佐藤寒山先生門下の刀和会、博物館関係、東京都支部、福士会、当組合などの代表が発起人となって準備を進め、四月十二日、AN Aインナーコンチネンタルホテル東京での開催となりました。

五十名余りの出席者はお互いに顔見知りの方ばかりで、福士先生を囲み、懐かしい昔話に花が咲き和気あいあいのひとときを過ごしました。

# 催事情報

## ■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767

### 戦国無双の刀剣展

いつの時代にも名将たちは名刀を所持し、意匠を凝らした甲冑に身を包み、技術の粋を結集した武器・武具で己の生きざまを内外に知らしめてきました。特に戦国時代を生きた武将たちは、多くの遺品や魅力的なエピソードが相乗効果となって、若い歴史ファンを増やし続けています。この度は、若者に絶大な人気を誇る

るゲーム『戦国無双』シリーズが10周年を迎え、新作ゲーム、マンガやアニメが公開される中、本作とコラボレーション企画することで、より多くの若者たちに本物の日本刀や甲冑に興味を持つきっかけを作り、さらなる保存・伝承へとつながることを期待しています。

会期：7月12日(土)～9月15日(月・祝)

## ■林原美術館

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 ☎086-223-1733

### 開館50周年記念特別展「武士のダンディズム」(仮)

戦国武将たちは自らの命を賭して戦い、祖先から伝えられた土地や財産を守りました。そして、戦乱の世が終わり江戸時代になると、武士はそれぞれに藩主に仕え、お家のために働きました。

本展は、多くの武将を魅了した備前刀の名品、室町時代以降に將軍や

天下人のお抱え金工師として活躍した後藤家歴代当主が製作した刀装具、そして武具や甲冑など、武士のダンディズムを感じることでできる作品を展示します。さらに当館所蔵の戦国時代の古文書も初公開し、武士たちの生きざまに迫ります。

会期：7月19日(土)～9月15日(月・祝)

## ■丸亀市立資料館

〒763-0025 香川県丸亀市一番丁 ☎0877-22-5366

### ～ニッカリ青江伝来400年記念～サムライの魂 日本刀の世界展

「ニッカリ青江」は南北朝時代の青江物で、貞次の作と伝えられています。本刀は大坂冬の陣の折、京極忠高が豊臣秀頼より拝領したもので、今年京極家に伝来して400年の節目の年に当たります。

本展ではこれを記念し、青江刀や

金刀比羅宮所蔵の奉納刀のほか、公益財団法人日本美術刀剣保存協会および同四国讃岐支部の協力により多数の刀・刀装具・甲冑を展示します。会期：7月12日(土)～8月31日(日) 月曜休館

## ■大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728

### 河内平野の弥生王墓

加美遺跡は、大阪市平野区加美東一帯にある弥生時代から奈良時代にかけての遺跡です。昭和59年に加美東6丁目で行った調査で、地下約3.5mのところから弥生時代中期の2基の墳丘墓が見つかりました。

その1つY-1号墓は、墳丘裾部で南北26m、東西15m、高さ3mと規模が大きく、墳頂部から23基の埋葬が見つかりました。

墳丘のほぼ中央に位置する5号木棺はこの墳丘墓の中心となる埋葬であり、板材を2枚重ねた荘重な作りの木棺を用いていました。その北側には着装品を持つ埋葬があり、2号木棺からは円環型銅釧(えんかんがたどうくしろ)1点とガラス平玉1点、14号木棺からは円環型銅釧1点、1号木棺からはガラス勾玉1点と丸

玉1点が出土しました。中でも円環型銅釧は北部九州や対馬、朝鮮半島に分布する型式の銅釧であり、加美遺跡の被葬者が西日本から東アジアに広がる交流ネットワークと関わりを持っていたことがうかがえます。

加美遺跡Y-1号墓は、墳丘規模が河内平野最大であり、当時貴重であったガラスや銅で作られた着装品を持つ人物が埋葬されていたことなどから、河内平野の諸集落を指導する立場(王)にあった有力氏族の墓とみられます。この墳墓から出土した資料をまとめて展示することで、弥生時代の首長と社会の様相についてご紹介します。

会期：7月16日(水)～9月1日(月) 火曜休館

鉄の展示館は、東京から電車で約二時間、坂城駅から徒歩五分、地元機械部品産業展示と人間国宝宮入行平記念室を併設し、十二年前に経産省所管で作られた施設である。七年前からは毎年、全国刀職者の研修もここで実施しており、源清磨生誕の小諸市にも近く、この地は今や信州の日本刀の

昨年までは東京虎ノ門・大倉集古館で開催されていたが、改修工事のため会場が変更となり、それに伴って公益財団法人日本刀文化振興協会・坂城町鉄の展示館・坂城町三者の共催、経済産業省・文化庁・長野県・坂城町教育委員会ほか地元マスコミ数社の後援により実現の運びとなった。



第5回展の授賞式(撮影/埴薫子)

その後、表彰が行われた。今回は経済産業大臣賞、日本刀文化振興協会会長賞のほか、特別賞として長野県知事賞、信濃毎日新聞社賞、坂城町長賞、坂城町教育長賞が授与された(入賞者別記)。



鉄の展示館での初の展示

六月二十一日の授賞式は、重要無形文化財総合指定保持者である観世流能楽師の松木千俊氏による奉納能楽「高砂」の舞により、引き締まった厳粛な雰囲気の中で始まった。本阿彌光洲理事長の開会の挨拶に続き、山村弘坂城町長の歓迎の言葉があり、若林健太参議院議員、初代日本刀文化振興協会会長の徳川康久様(現靖国神社宮司)からはお祝いのご挨拶を頂いた。

ご支援を賜りました各機関、ご協力を頂きました全日本刀匠会には心より御礼を申し上げます。作刀の部Ⅱ(経済産業大臣賞)明珍裕介、(日本刀文化振興協会会長賞)久保善博、(長野県知事賞)山上重則、(金賞)上山陽三・松葉一路、(銀賞)木村光宏・根津啓・森充吾、(銅賞)河

第五回を迎えた刀職全部門のコンクール「新作日本刀・研磨・外装刀職技術展覧会」が六月二十一日から八月三十日まで、長野県坂城町の「鉄の展示館」にて開かれている。

聖地と称しても過言ではない。日本刀の展示施設は充実していて、鑑賞の環境は非常に良い。ここを会場に五月八日から三日間、作刀・研磨・外装の順に、二名の文化庁担当三官立ち会いの下、厳正な審査が行われた。出品数はやや減少したが、作品は充実していてレベルも高い。作刀部門と研磨部門の上位入賞者の作品は優秀つけ難く、伯仲した審査となった。

に終わっても腐らず、また来年を期してほしいものです。ご来場の皆さまには、必死に挑んだ刀職者それぞれの意欲をぜひ感じ取っていただきたいと思えます。コンクールは組織のためではなく個々の刀職者のためにあるのであり、多くの方々に参加されることが刀剣界全体の繁栄にもつながることなるでしょう。

内一平・安達茂文・古川信夫 研磨の部Ⅱ(日本刀文化振興協会会長賞)小野敬博、(信濃毎日新聞社賞)水田吉政、(金賞)森井鐵太郎・倉島一・本阿彌毅、(銀賞)相良雄一・阿部聡一郎・正海郁雄・玉置城二・渡部恒継、(銅賞)藤川三朗・横山智庸・小川和比古・正海裕人・関山和進 刀装具の部Ⅱ(坂城町長賞)長内勝義、(坂城町教育長賞)フォード・ハラム、(銀賞)川島義之・川上登・福興裕毅

最後に、先生から出席者全員に書籍『赤坂鐘』が記念品としてプレゼントされました。本書は、丸

山菜一さんがご家族・ご親族に贈るために制作した豪華本で、福士先生が監修された赤坂鐘研究の決

定版です。限定二百部の稀覯本に、皆さん大喜びでした。福士先生は今年八十九歳になら

れますが、これからもますますお元気で活躍されることをお祈りします。(冥賀吉也)



刀 劍 界

平成26年7月15日発行(隔月刊)

平成26年(2014)盛夏 暑中お見舞い申し上げます

**毎月20日開催**  
**西日本甲冑交換会**  
 出品随時受付中  
 〒151-0053  
 東京都渋谷区代々木4-22-11  
 TEL 03-5350-8513  
 FAX 03-5350-8513  
 日本刀簾谷 篠谷 大輔

**飯田 高遠堂**  
 代表取締役 **飯田 慶久**  
**慶雄**  
 東京都新宿区下落合3-17-33  
 TEL 03-3395-1133  
 FAX 03-3395-1132

刀剣古銭・切手・古美術品(売買)  
**(株)城南堂古美術店**  
 代表 **田中 勝憲**  
 東京都目黒区上目黒4-31-10  
 携帯 090-3220-8196  
 FAX 03-3710-6776

**笹原 俊和**  
 〒869-2612  
 熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375-1  
 TEL 090-3078-4044

(株)日本刀剣  
**伊波 賢一**  
 〒105-0001  
 東京都港区虎ノ門3-18-11  
 TEL 03-3434-4432  
 FAX 03-3434-4432

やしま  
**齋藤 雅稔**  
 東京都西東京市柳沢6-18-10  
 TEL 042-463-5310  
 FAX 042-463-7955

やしま  
**齋藤 隆久**  
 東京都西東京市柳沢6-18-10  
 TEL 042-463-5310  
 FAX 042-463-7955

株式会社 **真玄堂**  
 〒101-0044  
 東京都千代田区鍛冶町1-7-17  
 TEL 03-3252-1784  
 FAX 03-3252-1784

刀剣市場野田会 毎月3日・19日開催  
 株式会社 **美術刀剣松本**  
**松本富夫・松本義行**  
 〒104-0061  
 東京都中央区銀座5-16-8  
 TEL 03-3573-2801  
 FAX 03-3573-2804  
 URL http://www.tokenshibata.co.jp

拵合せ致します  
 日本刀鞘師 **水野 美行**  
 〒160-0002 東京都新宿区坂町18  
 TEL 03-3353-8810

奈良県無形文化財保持者  
**月山 貞利**  
 〒633-0073  
 奈良県桜井市大字茅原228-18  
 TEL 0744-431-7330

株式会社 **刀剣柴田**  
**柴田 光隆**  
 〒104-0061 東京都中央区銀座5-16-8  
 TEL 03-3573-2801  
 FAX 03-3573-2804  
 URL http://www.tokenshibata.co.jp

もちだ美術  
**持田 具宏**  
 さいたま市中央区上落合1-9-4  
 TEL 048-855-4792

刀剣小道具  
 甲冑具高麗買入  
**丸英美術刀剣店**  
**瀬下 明彦**  
**瀬下 昌彦**  
 栃木県小山市乙女3-17-30  
 TEL 0285-45-0158  
 URL http://www.maruhide-touken.com

刀剣ギヤラリー 樹林  
**森野 幸男**  
 〒803-0812  
 北九州市小倉北区室町2-12-15  
 TEL 093-561-0449

美術刀剣 **勝武堂**  
**大平 岳子**  
**将広**  
 東京都中野区本町4-45-10  
 TEL/FAX 03-3381-3071  
 URL http://www.shoubudou.co.jp

**服部美術店**  
 東京都中央区日本橋3-15-12・2F  
 TEL 03-3274-5170

**赤荻 刀剣店**  
**赤荻 稔**  
 茨城県下妻市下妻乙172の5  
 TEL 0296-444-2643

つるぎの屋  
**冥賀 亮吉**  
**冥賀 亮典**  
 東京都北区西ヶ原4-35-11  
 TEL 03-3576-1175  
 FAX 03-3576-8419

刀剣・書・骨董 株式会社 **和敬堂**  
**土肥 富康**  
**肥田 豊久**  
 新潟県長岡市市町1-12-16  
 TEL 0258-333-8511  
 FAX 0258-333-8511  
 URL http://www.wakeido.com

銀座 盛光堂  
**齋藤 恒**  
 東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル  
 TEL 03-3569-2251(代)  
 URL http://www.ginzasetko.com

◎ **銀座誠友堂**  
 中央区銀座5-11 銀座フアイト2階  
 TEL 03-3558-8001  
 URL http://www.seiyudo.com

新堀美術刀剣  
**新堀 孝道・徹**  
**篤史・賀将**  
 横浜市旭区さちが丘2  
 TEL 045-364-2893  
 URL http://www.10con.jp/~sinbori

**銀座長州屋**

刀剣研師 **白木 良彦**  
 〒135-0045  
 東京都江東区古石場1-2-17  
 TEL 03-3643-3228

美術刀剣松山  
**福岡 光男**  
 愛媛県松山市松前町3-13-1  
 TEL/FAX 089-947-5177

刀剣古美術 優古堂  
 代表 **三浦 優子**  
 東松山市高坂769-15  
 TEL 0493-351-5559  
 URL http://yukodan.net

刀剣研師 **黒田 守寿**  
 福岡市博多区東雲町1-4-15  
 TEL 092-581-1728

売買・加工及びご相談承ります  
**大阪刀剣会**  
**吉井 唯夫**  
 〒542-0073  
 大阪市中央区日本橋2-17-11  
 TEL 06-6631-2211  
 FAX 06-6664-4546

甲冑・刀剣・刀装具 **福隆美術工芸**  
**網取 譲一**  
 東京都中央区銀座2-11-4  
 TEL 03-3541-8209

古美術刀剣 後藤  
**後藤 一乘**  
 〒462-0059  
 名古屋市中区駒止町2-33-3  
 TEL/FAX 052-1916-2583

美術刀剣のオンラインショップ「刀の蔵」  
 代表者 **佐藤 均**  
 〒710-1101  
 岡山県倉敷市茶屋町173  
 TEL 0120-963-4111  
 ホームページ http://katanokura.jp

刀剣・小道具・鍔 刀剣杉田  
 代表 **杉田 侑司**  
 豊島区池袋2-49-15  
 TEL 03-3398-0146  
 FAX 03-3398-0146

日本美術刀剣研磨  
 無鑑査 研師 **墨 賢藏**  
 東京都練馬区北2-17-15  
 TEL 03-3928-0062  
 携帯 090-4737-2715

虹雅堂美術舗  
**笠原 泰明**  
 〒142-0063 品川区荏原2-17-13  
 TEL/FAX 03-3781-6582

刀剣・小道具 申買・売買・工作及び相談承ります。  
 株式会社 **むさし屋**  
 代表取締役 **猿田 慎男**  
 〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19  
 TEL 072-257-8800  
 FAX 072-257-8800  
 URL http://www.musashiya.co.jp

刀 **水 和堂**  
**朝倉 忠史**  
 長野市南県町1136  
 TEL 026-228-0001  
 FAX 026-227-5789

刀 飯塚  
**飯塚 賢路**  
 〒337-0015  
 さいたま市見沼区蓮沼1004-11  
 TEL 048-688-2001  
 FAX 048-688-2002

古美術・刀剣 山城屋  
**嶋田 伸夫**  
 東京都豊島区東鴨1-21-8  
 TEL 03-3394-2270  
 FAX 03-3665-7142

株式会社 **舟山堂**  
**稲留 修一**  
 〒101-0047  
 東京都千代田区内神田2-4-13 石垣ビルB1  
 TEL/FAX 03-5297-8144

小沢刀剣店  
**小澤 正晴**  
 〒233-0032  
 栃木県小山市天神町218-54  
 TEL 0285-3015353

株式会社 **泰文堂**  
**川島 貴敏**  
 東京都中央区銀座4-3-11 松崎ビル4階  
 TEL 03-3563-2551  
 FAX 03-3563-2553

刀剣買取・管理お預り  
 有限会社 **紀伊国屋**  
 代表取締役 **松浦 孝子**  
 群馬県伊勢崎市連取町1836-1  
 TEL 0270-261-7778  
 FAX 0270-261-8878

池田刀剣研磨処  
**池田 長正**  
 〒243-0406 神奈川県海老名市国分北2-12-14  
 TEL 046-231-2535  
 FAX 046-231-1233  
 メール togohow@yahoo.co.jp  
 URL http://touken-tousougu-sakurane.jp

尾崎刀剣研磨處  
 刀剣研師 **尾崎 明幸**  
 メール oakiyuki@yahoo.co.jp

中山刀剣・美術店  
**中山 隆好**  
 〒248-0014  
 鎌倉市比方浜3-11-52  
 TEL 0467-221-3167

水野刀剣美術店  
**水野 光幸**  
 〒174-0004 板橋区板橋1-22-10  
 TEL 03-3396-4100  
 携帯 090-4027-17710

アオバ企画(株)  
 専務取締役 **高橋 一**  
 〒130-0012  
 東京都墨田区大平4-19-2 11308  
 TEL 03-3622-2231  
 FAX 03-3622-2251  
 メール aobakk@pj8.so-net.ne.jp